

「廊下はただでは歩かない」

廊下で子どもとつながる15の方法

岐阜生研

加藤 久雄

はじめに

教師の仕事のおおもとは、子どもとつながり、子どもと子どもをつなぎ、子どもと親をつなぎ、親と親をつなぐことにあります。

わたしたちは、庶民の子どもと共に生きる「庶民派教師」です。「ころんでも只では起きない」のが、由緒正しき(?)庶民のしたたかさです。したがって、庶民派教師は学校の廊下を只では歩きません。学校の廊下という無機質な空間を、子どもとの出合いの場、子どもとのふれ合いの場、子どもとの対話の場、子どもと一緒に楽しむ場にしてしまうのです。

あらゆる場で子どもとつながることによって影響力を持ち、子ども集団の中に自らのヘゲモニーを打ち立てようとするのです。「おもしろい先生やなあー」「へんな先生やなあー」「なんか他の先生と違うなあー」と思ってもらえたら、しめたもの。それで、もう、子どもらを十分に引き付け、子どもと深くつながるきっかけづくりをしているのです。

ここでは、わたしが実践してきた15の方法を紹介します。使えるものはどんどん使い、さらにいい方法を編み出して行って下さい。

はじめにお断りしておきますが、あくまでこれらは小学校バージョンです。中学校バージョンは中学校の先生で編み出して下さい。

その1 あいさつ作戦

まずは、こちらから明るく、さわやかにあいさつ。「おはよー」「オッハー」。元気なあいさつを返す子がいたら、「おっ、いいねえ。あいさつ名人ゲット!」と、すかさずほめる。「手のひら、パチン」のボディートーキング。帰りには、たまには、「さよ・おならー」とへんなあいさつ。子どもらが、くすりと笑ったら、こちらもうれしくなります。

その2 ほめほめ作戦

「ほめて育てる」。これが子育て、教育の大原則。いつでも、どこでも、ほめる。なんでも、ほめる。ほめることを見つけてほめる。

廊下でも、ほめる。床屋に行ってきたばかりの子がいたら、「かっこいいー、ハンサムやねえ」。「いいランドセルやねえー」「いいジーパンやねえ。どこで買ったの?」「お、元気やねえー、何かいいことあったの?」

ほめる材料は、無数にあるのです。忙しくて疲れがたまってくると、子どもの良くないところばかりが目につき、ほめることを忘れ、注意、叱責、小言、いやみ、愚痴、おどし、みせしめ・・・などなどのオンパレード。そういう時こそ、「ほめて育てる原則」に立ち返りたいものです。

その3 おどかし作戦

廊下の角にかくれて、「ワー」と驚かせる。あまり派手にやると、泣き出す子もいるので、ほどほどの声の大ききさで。

この作戦は、必ず仕返しされますので、心臓の弱い方にはお薦めできません。

その4 歌って、歌って作戦

廊下や階段で歌うと、声が良く響き、うまく聞こえます。「ゲッ、ゲッ、ゲゲゲのゲ・・・」でも「誰だ、誰だ、誰だー」でも、何でもいいので、子ども達がよく知っている歌を歌いながら、廊下を歩いたり、階段を上ったりします。子ども達が「クスリ」と笑ってくれたり、「何歌ってるの?」「何で歌っているの?」と聞いてくれたりしたら、大成功。時には、「ええ声やなあ」と子どもらに聞こえる声で自画自賛。「へんな先生やなあ」と思ってくれたらそれでいいのだ。

その5 スキップ作戦

廊下や階段をスキップしていきます。たいていの子は、「なにしとるの?」って声をかけてくれます。運動不足解消、足腰の筋力トレーニングにもなりますので、これは中高年齢の先生方にお奨めです。

その6 手を肩まで大きく振る作戦

とにかく手を肩まで大きく、できるだけオーバーに振って歩きます。これも、必ずといっていいほど子どもが声をかけてくれます。首筋や肩こりの治療にもなりますから、これも中高年齢の先生向きです。

その7 じゃんけん作戦

「ね、ね、じゃんけんの勝負しよ」と声をかけ、じゃんけんをします。負けたら、「君は強いねえ」とほめます。勝ったら、「よっしゃあ」と大げさに喜びます。「もう一回」とねだってきたら、「よーし、3回勝負ー」などと、相手をしてやります。

時には、「かとせんはねえ。超能力者だからテレパシーが使えるんだよ。君が何を出すか操ることができるから、絶対にじゃんけんで負けない」などと言い、子どもの目をじーと見て、「グー出せ、グー出せ、グー出せ」などと念じてから、じゃんけんをします。不思議と勝つことが多いのです。

負けたら、「君はすごいねえ。かとせんの超能力を跳ね返してしまった。君にも超能力があるかも?」とほめたり、「うーん、きょうは調子が悪い。今度リベンジするぞー」

廊下で会うと、「かとせん、勝負」と声を掛けてくる「じゃんけん仲間」がいっぱいできます。

その8 うちわサービス作戦

学校の夏の暑さは異常です。40度近い教室は、学習する場でもなければ、労働の場でもありません。教室に2機ある扇風機も「焼け石に水」。「30度を越えたら、学校は休みにしたいよねえ」と言うと、どの子も大賛成してくれます。

暑くなったら、いつでも、どこでも「うちわ」を手放さない。授業中、ノートにしっかり書いている子がいたら、うちわサービス。少しでもいいことがあったら、うちわサービス。中には、「もっと、強烈にやってくれー」という子も。肩もみサービスも人気がありますが、うちわサービスは人気No.1です。

廊下でもやります。休み時間がすんで汗だらけで昇降口から入ってくる子どもらにサービスすると、「あー、気持ちいいー」とうっとりとした、とろけるような表情。いい表情です。まるで天使のようです。子どものこういう表情をみたいから、教師をやってるんだなあと思ってしまいます。

その9 名札チラリ作戦

名札なんていらない。これが基本的な考え方ですが、無くせないんだったら、活用しなくちゃあ。名札をちらりと見て、「あー、君ねえ、6年生にお姉ちゃんいるでしょう?」

兄弟姉妹はどこか似ているところがありますから、大抵は当たります。

「やっぱり、そうかあー。お姉ちゃんねえ、算数の時間よく手を挙げてがんばっているよ」と、ここでもすかさず「ほめほめ作戦」。兄弟姉妹を仲良くさせるのも、教師の仕事の一つです。

その10 おもしろ先生作戦

補充で行ったクラスでは、授業の終わりの5分前に「みなさん、自習をとってもよくがんばったので、ご褒美をあげます」と言って、とっておきのおもしろい歌・ゲームを教えます。教室を出るときには、「あー、おもしろかった。また来てねー」の声々。

そのクラスの子らと廊下で会うと、「あー、おもしろ先生や」と言ってくれます。「ありがとう。また、行くでね」（今度行ったときには、どの遊びにしよう？）小さな喜びが一つ増えるのです。

担任のない教師は4月の遠足に、各学年に配置されて、お助け要員として参加します。1年生のお助け。公園の原っぱに犬のうんちがいっぱいありました。

「うわー、犬のうんち、踏んじゃったー」（本当は踏んでないのです）

「きたなーい」「ほらほら、つけたろかー」「きったねー、逃げろー」こんな騒動がありました。

その子達は、わたしの顔を見ると「うんこ踏み踏みせんせー」と大声で呼んでくれます。それが、1年以上も経った2年生になっても続くのです。よほど、印象が深かったのでしょうか？ これは、おもしろ先生の変形バージョンです。

その11 だじゃれ作戦

子どもらは、6年生でも不思議なほど、漢字暗号や数字の暗号が大好きです。もちろん、だじゃれも。「サブー」と言いながら、けっこう楽しんでいきます。

廊下でリコーダーを首にぶらさげている子らに会ったら、「リコーダーを吹く子は、おりこうだー」。トイレの前では、「おおかみがトイレへ行った。おーかみがない」。

だじゃれノートを作りました。180のだじゃれが書いてあります。子どもらが考えてきただじゃれで、いいものは採用し、ノートに書き加えます。採用された子には、ご褒美で、ビー玉2個と先生の手作りの名刺。ビー玉2個とバカにするなかれ。これだけで、数時間も、数日も、数週間も遊べるのです。その技も、教えてやりたいものです。

その12 めがねはずし、鏡作戦

わたしは、めがねをかけています。「ねがめをはずした顔を見せてー」と言ってくる子もいます。

階段の踊り場に姿見の鏡の前で、めがねをはずし、不気味な表情で「鏡よ、鏡よ、鏡さん、この学校でいちばん変な先生はだあれ」。

「お前に決まっとるやろ」「あほと違うか」こういうことを言ってくる子は、うち解けている子。頼りになる子に違いないのです。

その13 くそじい作戦

悪口が言えない子より、悪口も言える子の方が「生きる力」がある。悪口合戦も子どもらの力を伸ばす一つの方法として、やったことがあります。

さて、廊下を歩いていると、1年生で「おじさん、名前はなんて言うの？」と聞いてくる子らがいます。「おじさんじゃあないよ。お兄さんだよ」と言うと、「あのねえ、お兄さんは、10代か20代の人のことだよ」「だから、わたしはお兄さんですよ」「えー、

ほんとう?」「うそ、うそ」。1、2年生ぐらいの子らには、大人の年が分からないのかなあ?

元気な子らは、「あー、おじさんやあ」と言ってきました。こういう時は、少しこわい顔をつくって、「おじさんじゃあ、ありません。おじいさんです」と言うと、「じゃあ、おじいさん」と言ってきました。

「おじいさんじゃあ、ありません。じじいです。じじいと呼んでください」

「じじいー」

「じじいじゃあ、ありません。くそじじいです」

「わー、くそじじいや」

「かとせんが、くそじじいなら、あんたらは、うんこちゃんでしょう」

「えー」「なんでー」

「あんたたちねえ。自分のお父さんのことをくそじじい、お母さんのことをくそばばあって言ったことあるでしょう」

「うん、ある、ある」「わたしも、ある」

「お父さんがくそじじいで、お母さんがくそばばあなら、くそじじいとくそばばあから産まれてきたあんたたちは、・・・うんこちゃんでしょう」

「うわー」「へー」「ぎゃー」

学校の教師に対して「くそじじい」「くそばばあ」と言えない子よりも、言える子の方が「生きる力」があるのだ。

その14 手のひらずもう作戦

二人が向かい合って立ち、手のひらだけをパチンしてはじき合う。足の裏が少しでも動いたら負け。これが、手のひらずもうです。同じタイミングでぶつかり合えば、体重の重い方が有利。しかし、タイミングをはずし、相手を前につんのめらせたり、はじくスピードと角度によっては、必ずしもそうとは限らない。体重も身長も小さい方が勝つこともあるのです。

ちょっとしたスペースでできるので、「おい、よろか」と声をかけ、教室・廊下・昇降口・オープンスペースで勝負。これも、「じゃんけん作戦」と同じように、「手のひらずもう仲間」がいっぱいできます。

その15 脇腹くすぐり作戦

後ろから、脇腹をちょちょとくすぐる。これも、「おどかし作戦」と同じように必ず仕返しされますので、ご用心を。かとせんの最大の弱点だということが分かるとよけいにやられます。「やめてくれー、やめんかー」と思わず大声を出したことが、何度もあります。

「おんぶ作戦・じしんおんぶ作戦・どっしんおんぶ作戦」「ピポピポ作戦」「トントん、入ってますか作戦」「扉そーっと開け、幽霊作戦」「よろけ作戦」「つますき作戦」などなど、忘れかけていた子ども心やいたずら心を掘り起こしてみれば、作戦は無数にあるようで・・・。

自分に合った作戦を、自分のスタンスに合ったやり方でやりながら、自分流の作戦（方法）を編み出していくことも、教師の仕事のささやかな喜びの一つだと思うのです。